



『科研費』って何?!

科研費は正式には、科学研究費助成事業といいます。ご存知の通り、大学や研究機関においては、さまざまな学術研究が行われています。それを円滑に進めるために、国が資金を援助する仕組みが科研費です。

では、学術研究とは何なのでしょう？一言でいえば、人間・社会・自然の中に潜む真理を探究することを目標にした知的な営みです。私たちの身の回りでは、常に新しい技術や製品、サービスが続々と誕生しています。実は、こうした活動の始まりの多くは、研究者の自由な発想をベースとする学術研究に端を発しています。その意味で、**科研費は学術研究を幅広く支えることで、社会や科学を発展させるための種を蒔き、芽を育てるという重要な役割を担っているのです。**

科研費の歴史は古く、その起源は1918年(大正7年)に遡ります。創設当初は自然科学分野だけを対象としていましたが、1943年(昭和18年)からは人文・社会系を含めたあらゆる学術研究へと対象を拡大。以来、日本における「知」や「価値」の創造に寄与し、現在では政府全体の競争的資金の5割以上を占めるわが国最大規模の競争的資金制度として根付いています。

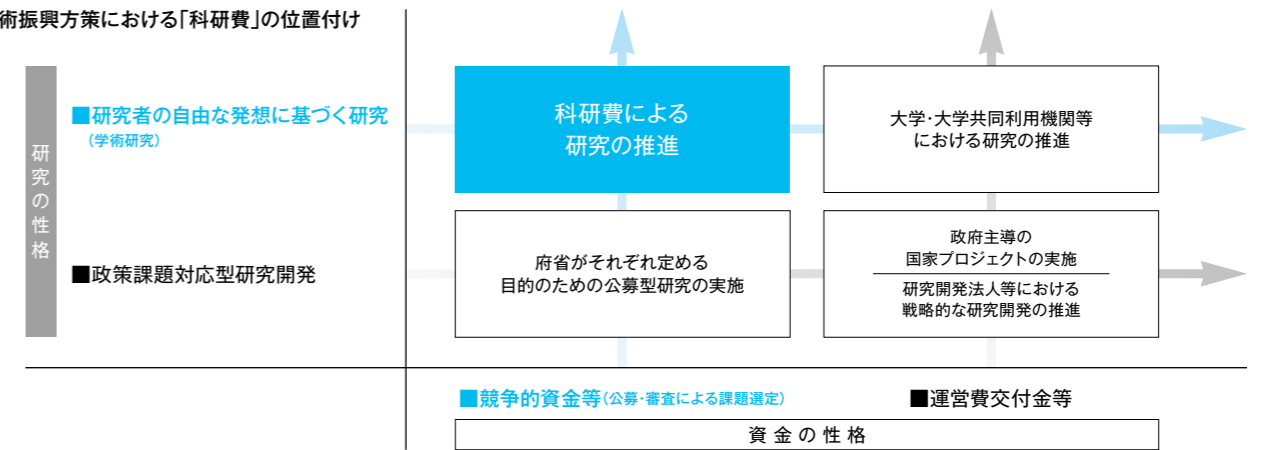
ここでいう「競争的資金」とは、言葉の通り、コンペティション(競争・競合)があるということ。科研費は研究者から応募された研究計画を踏まえて、厳正な審査を経て採択されます。その数は現在、数年間継続している研究を含めて、約8万件にのぼります。

科研費の目的

研究には「国家プロジェクトとして重点的に取り組むもの」、「新製品開発を目的とするもの」から、具体的ではないものの、独創的・先駆的なアイデアをベースとする将来有望な研究まで、多様な取り組みがあります。前者が応用研究や目的研究、後者が基礎研究や学術研究といわれるものです。

科研費は、基本的に後者を支えることを目的としています。求められているのは、新たな知の開拓に向けた「**挑戦性**」、細分化された知を俯瞰する「**総合性**」、異分野との連携を推進する「**融合性**」、世界規模での議論や検証を進展させる「**国際性**」。これらを踏まえて、科研費は世界をリードする新たな「知」の創造に貢献していこうとしているのです。

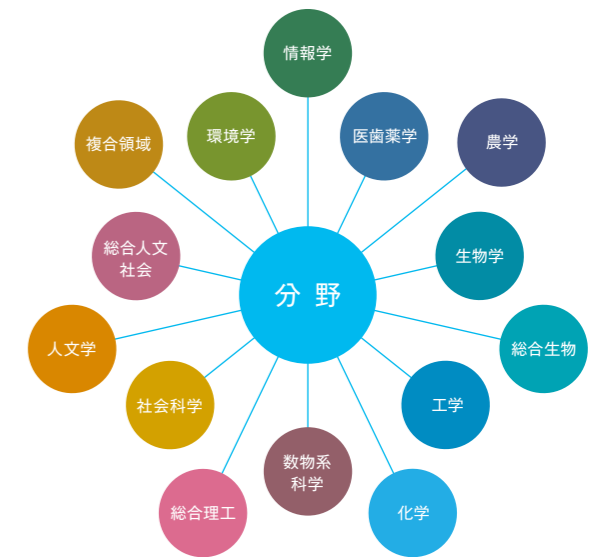
科学技術・学術振興方策における「科研費」の位置付け



科研費の学問領域

科研費は全国に約27万人いるといわれる全ての研究者、そして基礎から応用までを含めたあらゆる独創的・先駆的な「学術研究」を対象としています。当然、そこには自然科学や人文・社会系をはじめ、**多種多様な学問領域**が存在します。また、伝統的な学問もあれば、最先端技術に関わる学問もあります。

具体的には右の図にある通り14の学問分野で構成されており、さらには79の分科(専門の科)、300を超える研究テーマの細目に分かれています。



科研費の社会的インパクト

学術研究は、学問そのものを追究・探究するのみならず、究極的には社会の変革や生活の改善に寄与するものでなくてはなりません。例えば、**iPS細胞**や**青色発光ダイオード**といった**ノーベル賞を受賞した研究**は、わが国のみならず、世界の人々に多大な恩恵を与える歴史的な研究といえますが、これらもほぼ例外なく、科研費に支えられて、その研究を伸展させてきたのです。また、科研費によって障壁を突破し、地域経済の発展や生活の質的向上をもたらしたケースも多くあります。

Nobel Prizes



大学の強みがわかる科研費ランキング

文部科学省は平成26年(2014年)度より、**科研費のランキングを公表**しています。これは、研究テーマの細目ごとに過去5年間遡って、科研費の採択件数が多い大学のベスト10を示したものです。これによって、それぞれの研究テーマにおいて強みや特色を発揮している大学を可視化(見える化)することができます。例えば、産学連携を模索している企業などにとっては、パートナー探しの一助となり得ます。

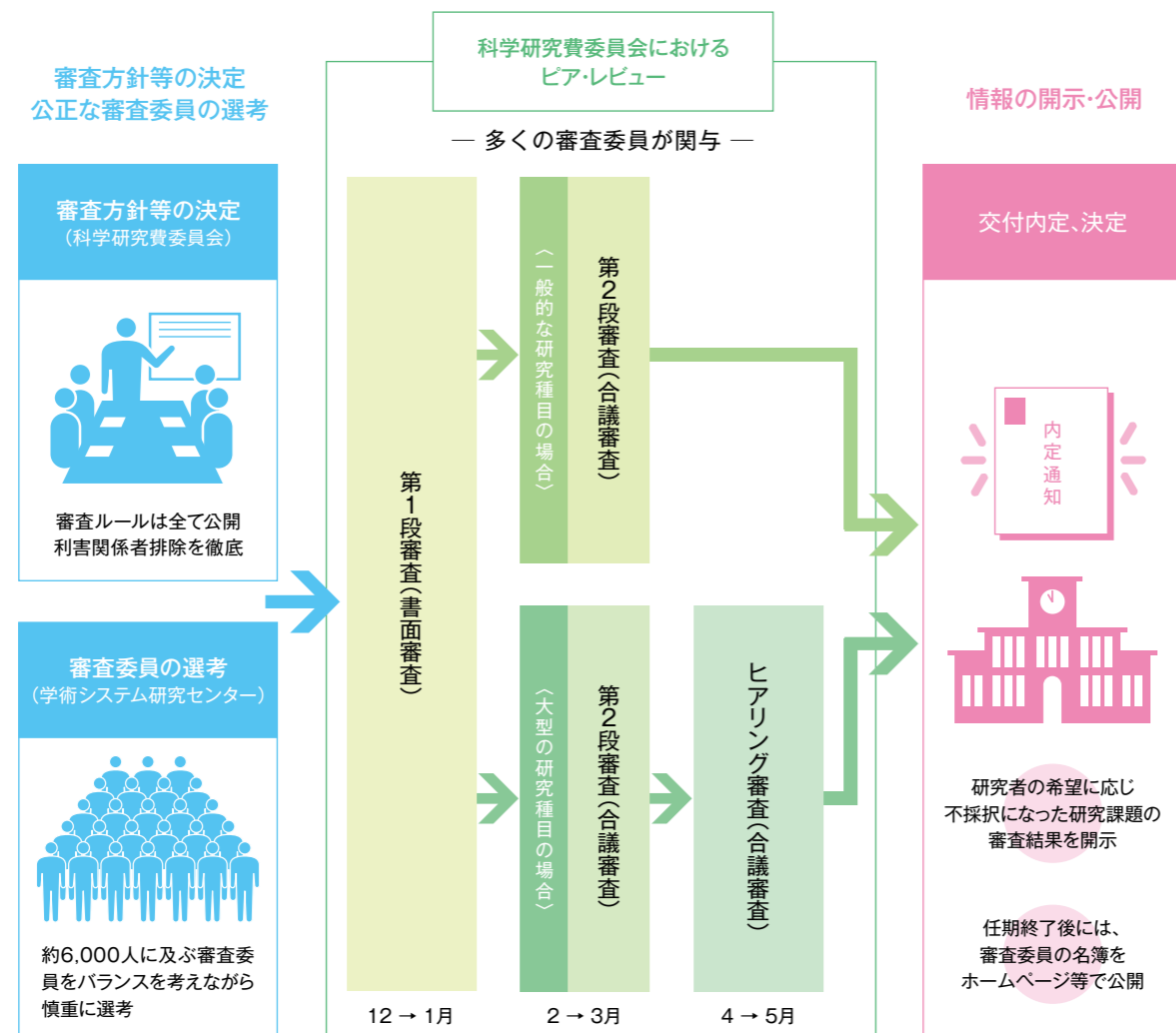
もちろん、どの大学が何の研究で、どのような強みを発揮しているのかは、大学を目指す受験生にとっても知りたいところです。大学での学びを具体的に考えたり、自身の将来の方向性を探るきっかけにもなるからです。そのような意味で科研費ランキングは、大学の本当の実力を知るためのモノサシとして、また大学選びの新しい指針として活用することができます。

厳正な審査のもとに採択

科研費は、研究者から応募された研究のアイデアや計画について厳正な審査を経て採択される「競争的資金制度」です。その最大の特徴は、「ピアレビュー(Peer Review)」という仕組みによって審査が行われていることに他なりません。

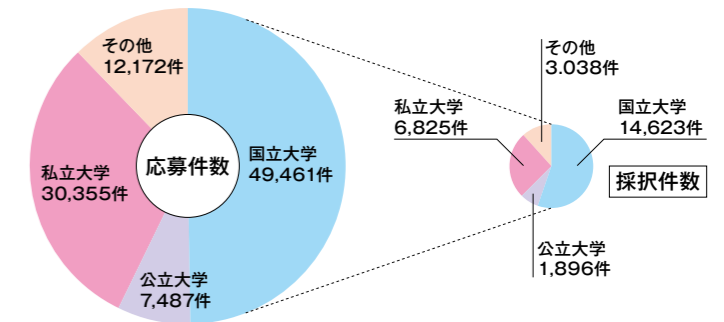
「ピア」とは、英語で「仲間」、「同僚」を意味する言葉。つまり、6,000人

以上におよぶ全ての審査委員は、その分野の卓越した研究者たちです。**科研費は「公正公平な審査委員選考」や「書面審査など複数回の審査」に加えて、同業者の厳しい目で「優れた研究課題」と認められて、初めて採択されます。**だからこそ、科研費による研究は、各界から大きな注目を集めているのです。



採択の割合

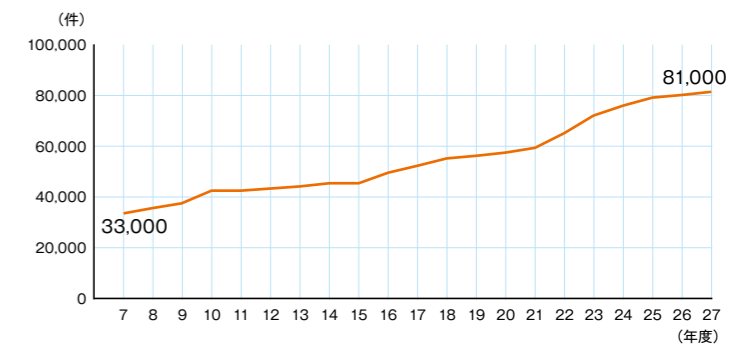
2015年(平成27年)度における科研費の応募件数は99,475件。そのうち26,382件が採択されています。その割合を見ると、国立大学が約半数を占めていますが、一方で**私立大学や公立大学の健闘も目立ちます。**特に私立大学は拡大傾向にあり、新規採択分と継続分の採択件数について見ると、最近5年間で私立大学が占める割合は24.5%から26.7%へと上昇カーブを描いています。



年々増え続ける採択件数

科研費の採択率は約30%で、応募する側の研究者にとっては決して容易なものではありません。それでもなお、この高いハードルに挑む研究者の数は増加の一途を辿り、これに伴い採択件数も増え続けています。それは、**より多くの大学や研究者が科研費に注目するようになったから**です。現在の採択率が維持されていけば、今後もユニークな研究が増えていくことが期待されます。

採択件数(新規+継続)の推移



科研費で選ぶ本当の実力大学

科研費と大学の研究は、非常に密接な関係にあります。まず、科研費における研究テーマの細目を調べることで、どんな学問があるかを調べることができます。一方、科研費ランキングを見ることで、**その分野でどの大学が強みを発揮しているか**を知ることができます。さらには、インターネット上の「科研費データベース」でサーチすれば、研究分野の内容も閲覧できます。大学選びには偏差値、就職力、ブランド力、キャンパスの設備や雰囲気など、さまざまな要素がありますが、大学の研究力を知るための目安として、ぜひ科研費のランキングを活用してみてください。

